

標準委員会 リスク専門部会 津波 PSA 分科会
第 7 回津波 PSA 分科会議事録

1. 日 時 2011年8月10日 (水) 13:30~17:00

2. 場 所 (社)日本原子力技術協会 A,B会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 山口主査 (阪大)、蝦沢副主査(JNES)、桐本幹事 (電中研)、倉本委員 (NEL)、黒岩委員 (MHI)、杉野委員 (JNES)、鈴木委員 (原技協)、竹山委員 (中電)、中井委員 (JAEA)、成宮委員 (関電)、西尾 (藤本委員 (JNES) の代理)、松山委員 (電中研)、美原委員 (鹿島建設)、秋山委員 (CTC)、喜多委員 (TEPSYS) (15名)

(欠席委員) 木下委員 (NISA)、佐竹委員 (東大)、平野委員 (東京都市大)、守屋委員 (日立 GE) (4名)

(常時参加者) 宮本 (四電)、岩田 (東電)、坂田 (GIS)、佐竹(原技協)、廣川 (TEPSYS) (5名)

(傍聴者) 太田 (電発)、宮野 (法大) (2名)

4. 配付資料

- RK2SC 7-1-1 第 6 回津波 PSA 分科会議事録 (案)
- RK2SC 7-1-2 人事について (津波 PSA 分科会)
- RK2SC 7-2-1 津波 PRA 実施基準案
- RK2SC 7-2-2 評価的用例の検討 別冊
- RK2SC 7-2-3 PRA に関する用語及び定義、略語案
- RK2SC 7-2-4 建屋・機器フラジリティ評価修正案
- RK2SC 7-2-5 リスク専門部会コメントと対応について
- RK2SC 7-2-6 表 1 津波 PRA と地震 PRA の相違点 (建屋・機器フラジリティ評価)
- RK2SC 7-3 津波 PRA コメント及び対応方針整理表
- RK2SC 7-4 津波 PSA 分科会主要スケジュール (案)

参考資料:

- ・参考 1 第 6 回津波 PSA 分科会議事メモ (案)

5. 議事内容

議事に先立ち、開始時点で委員 19 名中 15 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数 (13 名以上) を満足している旨が報告された。

(1) 議事録確認

前回議事録について、資料 RK2SC 7-1-1 に基づいて、桐本幹事から説明があった。議事録については特にコメントは無く、了承された。

(2) 人事について

常時参加者について、資料 RK2SC 7-1-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。届出のあった岩田氏が、出席委員全員同意で承認された。

また、山口主査より、リスク専門部会(8/8)において、木下委員、杉野委員の両委員が承認されたことが報告された。

(3) リスク専門部会コメントの対応及び標準案の検討について

①まえがき

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、「地震とそれに随伴する事象のリスクが支配的」の記述に対するリスク専門部会のコメントについては、特に修正の必要がないため、その旨をリスク専門部会に説明することとした。また、下記の趣旨で修正することとなった。合わせて英文についても修正することとなった。

- ・地震 PRA の記述について、時系列が明確になるように年月を記載するとともに、公的事実を記載する。
- ・第 4,5 パラグラフを一まとめとして簡潔に記載する。
- ・3/11 に発生した地震名称、その他語句を修正する。

②2 章 引用規格

資料 RK2SC 7-2-1 に基づいて、桐本幹事から説明があり、レベル 2,3PSA 及び停止時 PSA 実施基準については、津波 PRA 実施基準の適用範囲外であることから引用規格とはせず、その旨を解説に記載することとなった。

③3 章 用語及び定義、略語

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、3.1～3.4 については本文に残し、解説 4 を参照するように修正することとなった。

④5 章 プラント構成・特性及びサイト状況の調査

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、5.2.2 及び 5.2.3 において「望ましい」としている事項については、必須事項とするよう修正することとなった。

⑤7 章 津波ハザード評価

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、また、資料 RK2SC 7-2-6 に基づいて、津波 PRA と地震 PRA における脆弱性評価の相違点について、美原委員から説明があった。ハザード評価、システム解析など、他の項目についても可能な範囲で相違点をまとめた資料を、9/1 を目途に作成することとした。

⑥8 章 建屋・機器脆弱性評価

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、また、資料 RK2SC 7-2-4 に基づいて、第 8 章の修正案について、美原委員から説明があり、一部表現を修正することとなった。また、附属書 G への東北地方太平洋沖

地震の反映については、現在この地震について地震調査研究推進本部で検討中であることからその旨を各図表に脚注として記載することとした。

⑦9章 事故シーケンス評価

資料 RK2SC 7-2-1 及び資料 RK2SC 7-2-5 に基づいて、桐本幹事から説明があり、JNES の津波 PRA の試評価に関する報告書については、9.3.4「イベントツリーの作成」において、参考文献として引用することとなった。

⑧その他

複数基立地サイトにおけるリスク評価手法について議論となった。本標準は、複数基立地サイト全体のリスクの議論は対象外としているものの、このようなリスクを評価するには別途の研究が必要になる可能性があるなどの意見が出された。今回の議論について、解説 2 に追記する方向で検討することとした。

その他、標準全体の記載において、文言の修正が必要な箇所が抽出された。

リスク専門部会の投票前に必要な修正については、各章の担当委員が 8/11 午前中までに修正し、桐本幹事に送付することとなった。

(4) 評価適用例の検討 別冊について

資料 RK2SC 7-2-2 に基づいて、桐本幹事から説明があった。

(5) PRA に関する用語及び定義、略語案について

資料 RK2SC 7-2-3 に基づいて、桐本幹事から説明があった。

(6) 本分科会の名称について

リスク専門部会(8/8)において、リスク戦略タスクでの PSA と PRA の用語についてのポジションペーパーの議論が紹介されたこと、学会標準はリスク評価の手法を規定しているのであり安全評価ではないため、名称として PRA の方がより適していること、また本分科会の名称も PRA で統一すればまえがきや標準本体の記載も統一されるため、「津波 PRA 分科会」に変更する了解を得たことなどが、山口主査から紹介された。

(7) スケジュール及びその他事項について

今後のスケジュールについて、資料 RK2SC 7-4 に基づいて、桐本委員から説明があった。次回分科会ではリスク専門部会の書面投票でのコメント対応結果、次々回分科会では標準委員会でのコメント対応結果について検討予定であることが紹介された。

(8) 今後の予定

第 8 回 8 月 29 日 (月) 午後

第 9 回 9 月 15 日 (木) 17:00～

以 上